

令和 6 年 6 月 14 日現在

機関番号：14201

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2021～2023

課題番号：21K00325

研究課題名（和文）初唐から中唐における園林文学の変遷に関する研究

研究課題名（英文）A Study on the Transition of Garden Literature from the Early Tang Dynasty to the Middle Tang Dynasty

研究代表者

二宮 美那子（NINOMIYA, Minako）

滋賀大学・教育学系・教授

研究者番号：40738895

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,300,000 円

研究成果の概要（和文）：盛唐の山水詩人の代表として併称される「王孟（王維・孟浩然）」について、その共通点と相違点を考察し、口頭発表を行った。これもふまえ、「孟浩然の旅の詩：六朝「行旅」詩の流れをふまえて」を発表し、『文選』および六朝の詩から孟浩然に至るまでの変遷について論じた。また、これまでの研究の蓄積をふまえ、事典の一項目として園林及び王維についての通史的記述を執筆した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

園林文学研究の蓄積を背景として研究の視野を広げ、園林詩の作者として重要な王維と、彼と同時代の孟浩然の文学に注目した。山水詩における「王孟」の併称、両者の交遊の実際、山水・行旅など伝統的な文学ジャンルの再検討を行った。孟浩然の旅の詩についての論考は、王維詩及び園林文学への興味の延長線上にあり、見知らぬ・遠方の場所を描く行旅詩／個別の・親しみのある場所を描く園林、という対比構造で捉えられ、園林文学をより立体的に考察することにつながる。

研究成果の概要（英文）：Wang Wei and Meng Haoran are jointly referred to as representatives of the shanshui poets of the Sheng-Tang Dynasty. This study examines the similarities and differences between them. We also presented "Poetry of the journey by Meng Haoran Based on the trends of journey poetry since the Six Dynasties" in which we discussed the transition from the "Wenxuan" and Six Dynasties poetry to Meng Haoran. In addition, based on the accumulation of research to date, we have written a general historical description of garden and Wang Wei as an entry in the dictionary.

研究分野：中国古典

キーワード：唐詩 園林 山水詩 孟浩然

### 1. 研究開始当初の背景

報告者はこれまで、六朝から中晩唐にかけての「園林文学」の様相を解明してきた。「園林」は、庭園・別荘・別墅(田畑など家産を含む別荘地)などの総称である。山林の中に置かれた別荘・別墅や都市の中に設けられた私邸(庭園を含む)は、文学作品では往々にして「隠逸の場」「閑適の場」として扱われる。

「園林文学」という角度からの研究は、国内ではなお少ない。実際の作品に目を向けると、つとに漢代には皇帝の苑園を描いた「上林の賦」があり、時代が下ると詩人の名と結びつけられた有名園林(王維の輞川荘・李徳裕の平泉荘…)が創作の場となる。このように園林は、隠逸・山水・田園などのように中国文学を語る主要なキーワードとなるには至っていないが、文学史においても重要な位置を占めてきたことは明らかである。

報告者はこれまで、王維の輞川荘・李徳裕の平泉荘・裴度の集賢林亭・白居易の履道里邸など個別の園林文学を扱った研究、また時代を遡り六朝において私的空間がいかに描かれたかについての研究を行っている。

### 2. 研究の目的

唐代の園林、すなわち私的空間を描く文学の変遷を、唐代詩人の作品研究を通してより精緻にとらえることを目的の一つにおく。また、園林文学の周辺の事象にも目を向け、中国古典詩をより立体的に捉えることを目指す。中国古典文学研究に「園林」という視点を加えることで、伝統的な「山水」「隠逸」などとは異なる枠組みを示し、新たな知見を得ることも目指すところである。

### 3. 研究の方法

本研究は園林という「場」と文学作品との関係を重視して進める。作品の精読がその最も基礎的にして重要な方法となる。具体的には、盛唐・王維の文学とその周辺についての再検討を行った。山水詩人として「王孟」と併称される孟浩然との比較・実際の交友関係についての考察・それぞれの詩風についての考察を進めた。そこから発展して、「旅」の詩に着目し、孟浩然に至るまでの旅の詩の特徴について、『文選』および六朝のその他の詩のながれをたどることで明らかにした。

### 4. 研究成果

#### (1) 口頭発表「王孟」再考(京都大学中国文学会第三十六会例会(於京都大学) 2021年7月)

盛唐の山水・田園詩人の代表として併称される「王孟(王維・孟浩然)」について考察した。

- ・ 文学史上の「王孟」併称の由来の再確認

先行研究では、「王孟韋柳」の四者併称に先だって「王孟」の併称が散見されることが指摘される。史料を見ると、早期の「王孟」併称は「李杜」に準じる詩人として言及されるものであり、両者の詩風に山水詩人としての共通性を見ていた訳ではなかった。

- ・ 両者の関係性について

先行研究は、親友であったとするものから交遊は深くないとするものまで様々であるが、交遊がはっきりと確認できる直接の史料は多く残されてはいない。晩唐～宋代に至ると、二人が友人であったというエピソードが複数確認できる。二人の関係性には多分に後世の理想が託されていたのではないかと推察される。

- ・ 両者の詩風の確認

「盛唐の山水詩の代表的作者」として広く受け入れられてきた「王孟」の併称だが、両者の詩人としてのあり方は異なる。中晩唐・張祜に「襄陽属浩然(襄陽は浩然に属す)」「題孟处士宅(孟处士の宅に題す)」という句があるように、孟浩然是故郷の襄陽を拠点とし、多くの旅の詩を残した。孟浩然の山水の中には、北方の山水を描く際にも南方に由来する語・景物に重ねて描く表現があり注目される。

一方の王維は、「其詩于富貴山林、兩得其趣(其の詩 富貴と山林とにおいて、両つながら其の趣を得)」「(張戒『歳寒堂詩話』巻上)と評される通り、宮廷詩人と山水詩人という二つの側面をもつ。王維の詩を「池苑」と「江湖」という二つの側面から分析する先行研究(葛曉音『山水田園詩派研究』江寧大学出版社、1993)も同様の観点をもつ。このように両者は異なる点が多々存在するが、にも関わらず、一部の作品に非常に似通った表現が見られることが興味深い。

#### (2) 論文「孟浩然の旅の詩：六朝「行旅」詩の流れをふまえて」(『中国文学報』第九十五冊、2022年4月、pp.1-31)

『文選』から孟浩然に至る旅を描く詩の展開をたどる。

『文選』中の「行旅」の詩は故郷や都を離れた憂いから出発する。旅自体が特殊な状況のも

のであり、故に個別の事情（時や場所、旅に出た背景）に言及するのが一般的である。時代がやや下り、六朝の梁・陳になると、これらに言及しない旅の詩が生まれる。更に、旅の愁いや感懷を述べず、情景描写を通して旅の情緒を伝える、穏やかな舟旅の詩が詠まれるようになる。

孟浩然詩はこの流れの延長線上にあるが、旅を一貫して楽しみと捉えて描く点で画期的である。旅の詩にしばしば描かれる異土への違和感は、一般的に愁いや悲しみにつながるものだが、孟浩然の旅の詩では驚きや好奇心につながる。故郷の襄陽を拠点とし、仕隠の枠組みからも外れた場所にあった孟浩然ならではの特徴であり、明るい陽光の下で描かれる快活な舟の旅は、孟浩然が拓いた新しい旅の詩の境地と言える。

なお、「行旅」詩は周囲の自然・環境を主要な描写の対象としており、見知らぬ・遠方の場所を描く行旅詩／個別の・親しみのある場所を描く園林、という対比構造で捉えられる。

(3) 事典項目（概論執筆）(『中国/日本 漢 文化大事典』明治書院、2024 年 6 月出版予定、「園林」「王維」「女性詩人」を担当)

「園林」：先秦から明清に至るまでの園林（庭園）の展開を概説。中国園林の特性（園林の三分類/詩文・絵画・思想および士大夫文化との深い関わりなど）・『詩経』靈台から始まる史料中の園林の姿・日本における受容 などについて記した。

「王維」：王維の家系・生涯・文学および受容と評価について記した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 二宮美那子	4. 巻 95
2. 論文標題 孟浩然の旅の詩：六朝「行旅」詩の流れをふまえて	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 中國文學報	6. 最初と最後の頁 1-31
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 二宮美那子
2. 発表標題 「王孟」再考
3. 学会等名 中国文学会第三十六会例会
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 川合康三・大谷雅夫・黒田真美子・小島毅・後藤昭雄編	4. 発行年 2024年
2. 出版社 明治書院	5. 総ページ数 952
3. 書名 中国/日本 漢 文化大事典	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------